

JSA 神奈川支部通信

No. 2 February 2025 日本科学者会議神奈川支部 発行

事務局長：☎230-0071 横浜市鶴見区駒岡 3-30-G-408 飯岡ひろし

HP：https://jsa-kanagawa.jp、携帯電話 080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com

年会費 10800 円、院生・読者 5400 円 ゆうちょ銀行振替口座 00280-1-12774 日本科学者会議神奈川支部

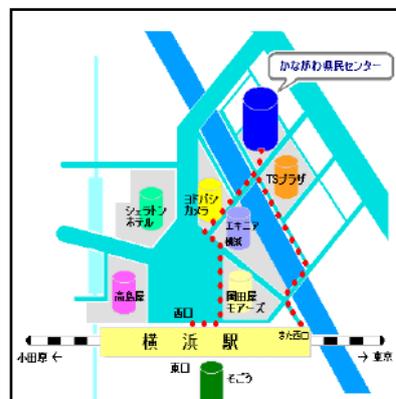
この号の目次

- ◆ 「建国記念の日」に反対する 2.11 神奈川県民のつどいのお知らせ 県民のつどい実行委員会
- ◆ 戦争しないと決めた憲法を、活かそう NO WAR FOR OUR LIBERTY! 集会の報告 後藤仁敏
- ◆ 「日本の科学者」編集委員会（1 月 4 日）の報告 後藤仁敏
- ◆ 混迷の生態学 石原 元
- ◆ 2025 年度 JSA 研究助成を募集します JSA 研究助成委員会

「建国記念の日」に反対する 2.11 神奈川県民のつどいのお知らせ

2.11 県民のつどい実行委員会

JSA 神奈川支部も実行委員会に参加している「建国記念の日」に反対する 2.11 神奈川県民のつどい：平和憲法と《シンボルの政治》を考えるが 2 月 11 日に開催されます。憲法の平和主義・人権尊重主義・民主主義をベースにして、「建国記念の日」というシンボル（象徴）、ヒロシマというシンボルについても考えてみたいと思います。江戸時代まで日本には建国記念の日はなかったのですが、明治政府は富国強兵を進めるために、1873 年に神話にもとづいて 2 月 11 日を「紀元節」としました。戦後、「紀元節」は廃止されましたが、1966 年に戦前回帰を狙う政府によって 2 月 11 日は「建国記念の日」として復活されました。この日は、日本社会にとって大変にシンボリック（象徴的）な意味を持つ祝日といえます。今年は、憲法学者の志田陽子さんに「平和憲法と《シンボルの政治》を考える」についてお話しいただきます。多くの皆様の参加をお待ちしています。



講師：志田陽子さん（武蔵野美術大学教授・憲法学）

日時：2025 年 2 月 11 日（火・休）13 時 30 分開会

受付 12 時 30 分～（12:45 頃から DVD の上映あり）

会場：かながわ県民センター 2 階ホール（横浜駅西口下車徒歩 5 分、地図参照）

資料代：500 円（高校生以下は無料）

講師プロフィール：志田陽子（しだようこ）さん 1961 年、東京都世田谷区生まれ。1984 年、早稲田大学法学部卒業。2000 年、同大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。同年、武蔵野美術

大学造形学部助教授。2002年、同教授。2007年に「文化戦争と憲法理論 アイデンティティの相剋と模索」で早大博士（法学）。著書に、『表現活動と法』（武蔵野美術大学出版局）、『文化戦争と憲法理論 アイデンティティの相剋と模索』（法律文化社）、『表現者のための憲法入門』（武蔵野美術大学出版局）、『「表現の自由」の明日へ 一人ひとりのために、共存社会のために』（大月書店）などがある。

主催：2.11 神奈川県民のつどい実行委員会

連絡先：神奈川県民のつどい実行委員会（担当・住谷） ☎045-212-5855 当日限り（事務局） ☎080-6709-4147

2.11 神奈川県民の集い実行委員会構成団体（2024年11月現在/順不同） 1. 日本基督教団神奈川県教区靖国天皇制問題委員会、2. 日本キリスト教会横浜桐畑教会靖国神社問題委員、3. 在日大韓基督教会横浜教会、4. 神奈川県教育運動連絡センター、5. 神奈川県私学教職員組合連合、6. 横浜市立高等学校教職員組合、7. 神奈川県立障害児学校教職員組合、8. 神奈川県教職員連絡協議会、9. 神奈川県高校教職員連絡会、10. 横浜教職員の会、11. 川崎市教職員連絡会、12. 日本科学者会議神奈川県支部、13. 神奈川県歴史教育者協議会、14. 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟神奈川県本部、15. アジア・フォーラム横浜、16. 県民連絡会、17. 教科書・市民フォーラム、18. 神奈川県平和遺族会

戦争しないと決めた憲法を、活かそう NO War our liberty!集会の報告

後藤仁敏

2024年12月22日、桜木町駅前広場で、戦争しないと決めた憲法を、活かそうNO WAR FOR OUR LIBERTY! 集会・パレードが500名弱の参加者を集めて開催されました。

開催にあたって164の賛同団体により作成されたリーフレット（図1）が配布されました。後藤の関係団体としては、九条科学者の会かながわ、「輝け九条」新護憲の会、神奈川3区野党共闘を求める市民の会、戦争させない横浜市民ネットワーク、栄区九条の会、神奈川県革新懇がありました。

市民らでつくる「ピースかながわ」（岸牧子・本田正男両共同代表）が主催し、主催者は、総選挙の結果、改憲勢力の議席が改憲発議に必要な3分の2を下回ったとはいえ、改憲の危険がなくなったわけではないと指摘しました。全国で展開された日米共同統合演習など戦争の準備が着々と進められるなか、戦争をする国にさせないため、「平和への最後のとりでとなる憲法を変えることは許さない」と緊急に取り組みました。

在日韓国人の孔連順（コン・リュンスン）さんは、韓国大統領の戒厳令と、300人以上が殺された光州事件に言及し、「政府が間違ったことをしたら国民は立ち上がらなければならない。あきら



図1 当日参加者に配布されたリーフレット

めずに戦争反対の声を高らかにあげよう」と呼びかけました。

「湘南平和憲法の碑を建立する会」の益永由紀さんは、「私たちが何も恐れず平和を訴えることができるのは平和憲法があるから」「子どもたちに戦争のない国を手渡したい」と訴えました。

核兵器廃絶をめざす「高校生一万人署名活動」に取り組む高校生らもスピーチし、平和のために声を上げようと呼びかけました。

ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の和田征子事務局次長は授賞式の報告をしました(図2)。

集会後、参加者はみなとみらい地区をパレードし、「ノー・モア・ウォー」「兵器はいらない」と声を上げました。被団協の和田さんはパレードの先頭に立たれました。当時の翌日という寒さのなかでしたが、元気の出る集会・パレードになりました。

なお、報告は12月23日の「しんぶん赤旗」の記事を参考にさせていただきました。



図2 授賞式の報告をした和田征子さん

「日本の科学者」編集委員会（1月4日）の報告

後藤仁敏

2025年1月4日の午後、2時間半にわたって「日本の科学者」編集委員会がZoomで開かれましたので、気づいた点について簡単に報告します。

25総学での「日本の科学者」についてのG1分科会・読者会について反省した。2024年12月号：現代社会が求める博物館、2025年1月号：フリースクールを考えるを振り返った。

今後の特集としては、2月号は「持続可能な地域づくり」、3月号は「核のゴミ処分と住民安全性の観点から『原発回帰』を問う」、4月号は「フェミニスト・エスニック・スタディーズとDEI（多様・公正・包摂）」、5月号は「循環型地域社会の構築に向けた取り組み」、6月号は「原発のない社会づくりのための検証と展望」、7月号は「中国地方の鉄道と地域公共交通のこれから」、8月号は「社会的引きこもり、登校拒否、不登校の今日的課題と展望」、9月号は「学問の自由」10月号は「科学リテラシーを育む理科教育 熱現象への理解を深める教育活動の工夫」が予定されている。これとは別に金谷義弘委員担当の『生成AI』を考えるとという連続シリーズを2月号からスタートさせることになった。

校正作業においてワードの校正機能を使用すると、校正以前の元の原稿が残って印刷されてしまうことがあるので、使用しないようにとのことであった。編集経費として月に8.4万円、年に100.8万円が編集委員長補佐に支払われていることを初めて知った。編集委員長にはまったく支払われていないとのことで、本来の趣旨と異なる使用ではないかとの疑問が残った。編集委員長からは「私はただ働きなので、いつでも辞められる」との発言もあった。

全国事務局にJSA60周年行事实行委員会が設置され、準備が進められている。「日本の科学者」としては、2015年の50周年にならって、今年12月から来年3月号までの号を60周年記念号として発行する予定。

比屋根委員からの提案の「申し合わせ」について運用を始めることになった。全国幹事会では JJS の電子化、冊子体の廃止については反対が多かった。経費節約のために、隔月発行、組版の自前作成なども検討しているが、実現は困難の様様。

次回の編集委員会は、3月1日（土）14時から16時30分の予定。

混迷の生態学

石原 元

Ecology 生態学

筆者は2014年に「今西錦司—そのアルピニズムと生態学」を出版し、今西錦司を全方位から照射すると共に、今西錦司こそが日本の生態学のパイオニアであると結論付けた。この時に「〇〇の生態学」というタイトルの日本語文献をほぼ限なく閲覧した。表1にその全容を示す（2015年以降の文献も追記）。この表1を概観すると、我田引水ながら、これが日本の生態学史の1つにもなっていることが分かる。

生態学 Ecology は比較的新しい学問分野であって、ドイツ人学者エルンスト・ヘッケルが1866年の「一般形態学」で示した Oecologie にその起源があるとされる（Oikos は家、経済、logos は学問）。確かに Ecology はヘッケルの Oecologie からまだ僅か160年の歴史しか経っていない学問である。表1に示すようにエルトンの Animal Ecology 1927年からも約100年しか経っていないし、日本に生態学が導入されたのも1931年の川村多實二の動物生態学が嚆矢である。川村は三好學がドイツ語から翻訳して初めて生態学の語彙を用いたというが、三好は Oecologie そのものを訳しておらず、Oecologie を生態学として日本に導入したのは川村になるのではないだろうか。

日本語で生態学を接尾語とする文献を概観し（一部翻訳書を含む）、日本の生態学の歴史を振り返ってみたい（英語で Ecology を付す文献の紹介はあまりにも膨大になるので省いた）。また、「生態学」に拘っているのが、生態系あるいは生態というタイトルの本は扱っていない。「日常」、「有限」、「二つの」、「反」、「偏見」、「個性」、「曖昧」、「なっとく」、「狭気」、「絶望」などの日本語を冠する奇妙なタイトルの文献も表1に入れているが、敢えて生態学を使わずとも、生物学とすれば良いと思える文献も少なくない。

鷺谷いづみ東京大学名誉教授の「生物保全の生態学」1999年以来、保全生態学という分野が隆盛となっている。しかし、これは本来の生態学とはねじれの位置にあるので、初期の2冊をリストするに留めた。また「漢字の生態学」（川越泰博2005、彩流社）は漢字をまるで生き物のように見ているがここでは書名の紹介に留める。酒場のサラリーマンの生態学、公園の男女の生態学などもありそうだが、これらも排除している。そして、過去の文献の響みに倣って、筆者もこの小文のタイトルを「混迷の生態学」とした。生態学エコロジーが省エネを表す「エコ」に転用されるなど、現在のエコロジーの乱用は混迷の極みのように映るからである。

生態学文献の紹介

表1の文献リストは通し番号を振ってあるので、これに従って見て行く。ヘッケルを別にして、生態学の祖は誰かという諸説あるだろうがイギリスのエルトン、アメリカのオダム兄弟というのがほぼ正解となるだろう。そのエルトンの Animal Ecology 1927年（文献ナンバー1、以下同様）が渋谷寿夫によって翻訳されたのが1955年で原本から28年経っている。オダムの Fundamentals of Ecology 1953年（3）が三島次郎によって翻訳されたのが1974年でこれも

表1 日本における代表的な生態学書の一覧

番号	著者	書名	年次	出版社
1	エルトンCharles Southerland Elton 渋谷寿夫 (訳)	Animal Ecology 動物の生態学	1927 1955	Sidgwick and Jackson, London 科学新書社
2	川村多賢二	動物生態学 (岩波講座生物学) [動物学]	1931	岩波書店
3	オダムEugene Pleasants Odum 三島次郎 (訳)	Fundamentals of Ecology 生態学の基礎 上・下	1953 1974,75	Saunders, Philadelphia 培風館
4	エルトンCharles Southerland Elton 川那部浩哉・大沢秀行・安部塚哉 (訳)	The Ecology of Invasion by Animals and Plants 侵略の生態学	1958 1971	Methuen, London 思索社
5	沼田真・吉良竜夫 (編)	植物生態学I, II (生態学体系)	1959, 60	古今書院
6	伊藤嘉昭	比較生態学	1959	岩波書店
7	渋谷寿夫	理論生態学	1960	理論社
8	宮地伝三郎・加藤陸奥雄・森主一・森下正明・渋谷寿夫・北沢右三	動物生態学	1961	朝倉書店
9	オダムEugene Pleasants Odum 水野寿彦 (訳)	Ecology オダム生態学	1963 1967	Holt Rinehart & Winston, NY 築地書館
10	正宗敏敬	森林植物生態学	1964	朝倉書店
11	沼田真・内田俊郎 (編)	応用生態学 (生態学大系)	1965	古今書院
12	ニコルスキーG.V. Nikolskii 1953 亀井健三 (訳)	Ekologiya Ruib	1965	たたら書房
13	大竹昭郎	動物生態学—その理論と実際 共立全書181	1970	共立出版
14	奥野良之助	磯魚の生態学	1971	創元社
15	水野寿彦	池沼の生態学 生態学研究シリーズ1	1971	築地書館
16	依田恭二	森林の生態学 生態学研究シリーズ4	1971	築地書館
17	水野信彦・御勢久右衛門	河川の生態学 生態学研究シリーズ2	1972	築地書館
18	時岡隆・原田英司・西村三郎	海の生態学 生態学研究シリーズ3	1972	築地書館
19	小田桂三郎・田中市郎・宇田川武俊・榎方研	耕地の生態学 生態学研究シリーズ6	1972	築地書館
20	水野寿彦	日常の生態学	1972	築地書館
21	マッカーサーRobert H. MacArthur 川西通晴・藤田和幸・安田誠 (訳)	Geographical Ecology 地理生態学	1972 1982	Princeton University Press, NJ 蒼樹書房
22	ベイトソンGregory Bateson 佐伯泰樹・佐藤良明・高橋和久 (訳)	Steps to an Ecology of Mind 精神の生態学	1972 1986,87	Jason Aronson, NJ 思索社
23	嶋田鏡・川鍋祐夫・佳山良正・伊藤秀三	草地の生態学 生態学研究シリーズ5	1973	築地書館
24	北沢右三	土壌動物生態学 (生態学講座14)	1973	共立出版
25	山本護太郎・伊藤猛夫	水界動物生態学I, II (生態学講座15)	1973	共立出版
26	島津康男	システム生態学 (生態学講座36)	1973	共立出版
27	塚田松雄	古生生態学I, II (生態学講座27)	1974	共立出版
28	中野尊正・沼田真・半谷高久・安部真也	都市生態学 (生態学講座28)	1974	共立出版
29	津田松苗	陸水生態学 (水文学講座14)	1974	共立出版
30	栗原康	有限の生態学	1975	岩波書店
31	伊藤嘉昭	動物生態学上・下	1975, 76	古今書院
32	内田俊郎	動物個体群生態学 (生態学講座17)	1975	共立出版
33	宮下和喜	絶滅の生態学	1976	思索社
34	ピアンカE.R. Pianka 久嶋洋之・中筋房夫・平野耕治 (訳)	Evolutionary Ecology 2nd edition 進化生態学	1978 1980	Harper and Row, NY 蒼樹書房
35	川合積次・川那部浩哉・水野信彦 (編)	日本の淡水生物 侵略と攪乱の生態学	1980	東海大学出版会
36	森下郁子	河口の生態学	1981	山海堂
37	川那部浩哉	二つの生態学	1982	雑誌科学1982年3月号
38	沖山宗雄・鈴木克美 (編)	日本の海洋生物 侵略と攪乱の生態学	1985	東海大学出版会
39	川那部浩哉	川と湖の生態学	1985	講談社学術文庫
40	水口憲哉	反生態学	1986	どうぶつ社
41	沼田真	都市の生態学	1987	岩波書店
42	川那部浩哉	備見の生態学	1987	農山漁村文化協会
43	クレブス・デービス J.R. Krebs and N.B. Davies 山岸哲・巖佐庸 (訳)	An Introduction to Behavioural Ecology 2nd Edition 行動生態学 (を学ぶ人に)	1987 1991	Blackwell Scientific Publications, Oxford 蒼樹書房
44	片野修	個性の生態学—動物の個性から群集へ	1991	京都大学学術出版会
45	大串龍一	日本の生態学 今西錦司とその周辺	1992	東海大学出版会
46	伊藤嘉昭・山村則男・嶋田正和	動物生態学	1992	蒼樹書房
47	川那部浩哉	味の生態学	1996	農山漁村文化協会
48	土肥昭夫・岩本俊孝・三浦慎悟・池田啓	哺乳類の生態学	1997	東京大学出版会
49	佐竹研一	酸性環境の生態学	1999	愛智出版
50	鷲谷いづみ	生物保全の生態学	1999	共立出版
51	井上民二	熱帯雨林の生態学	2001	八坂書房
52	沖野外輝夫	河川の生態学	2002	共立出版
53	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一・渡辺知保・阿部卓	人類生態学	2002	東京大学出版会
54	今西錦司著 中村桂子 (編)	行為的直観の生態学 京都哲学撰書19	2002	燈影舎
55	嶋田正和・山村則男・稲谷英一・伊藤嘉昭	動物生態学 新版 (1992年蒼樹書房版に対する新版)	2005	海遊舎
56	正木隆・相場慎一郎 (編)	森林生態学 (シリーズ現代の生態学)	2011	共立出版
57	大園享司・銀味麻衣子 (編)	微生物の生態学 (シリーズ現代の生態学)	2011	共立出版
58	白山義久・桜井泰憲・古谷研一・中原裕幸・松田裕之・加々美康彦 (編)	海洋保全生態学	2012	講談社
59	松田裕之	海の保全生態学	2012	東京大学出版会
60	斎藤展之・古賀康憲 (編)	行動生態学 (シリーズ現代の生態学)	2012	共立出版
61	中村太士 (編)	河川生態学	2013	講談社
62	原登志彦 (編)	地球環境変動の生態学 (シリーズ現代の生態学)	2014	共立出版
63	石原元	今西錦司—そのアルビニズムと生態学	2014	五曜書房
64	大黒俊哉・吉原佑・佐々木雄大	草原生態学	2015	東京大学出版会
65	大原雅	植物生態学	2015	海遊舎
66	川端善一郎・吉田丈人・古賀康憲・銀味麻衣子 (編)	感染症の生態学 (シリーズ現代の生態学)	2016	共立出版
67	津田敦・森田健太郎 (編)	海洋生態学 (シリーズ現代の生態学)	2016	共立出版
68	鷲谷いづみ	なっとく! 生態学	2017	講談社
69	船木拓生	快気の生態学	2021	ふねうま社
70	山田俊弘	絶望の生態学	2023	講談社

19年が経っている。この間、日本の生態学者は英語の原文で生態学を学んでいたことになる。

日本で生態学を最初に扱ったのは川村多實二の「動物生態学」岩波書店 1931年(2)であり、伊藤嘉昭の「比較生態学」岩波書店 1963年(6)、渋谷寿夫の「理論生態学」理論社 1960年(7)がこれに続く。1960年代には古今書院、朝倉書店、共立出版、築地書館が生態学の教科書を多数出版している。一方で蒼樹書房からは海外の生態学の記念碑的著作であるマッカーサーの「地理生態学」(21)、ピアンカの「進化生態学」(34)、クレブスとデービスの「行動生態学」(43)が翻訳出版され、欧米の生態学の潮流にも触れることが可能となった。行動生態学は今では社会生物学として知られ、人間も含めた生物個体の行動に社会集団が関わっていることが立証されている。もう1つの翻訳本である「精神の生態学」(22)は巨大な思想家グレゴリー・ベイトソンの Steps to an ecology of mind が原本である。何故 mind が生態学になるのか、それを考える機会を与えてくれる本としてここに挿入した。

1971年に川那部浩哉氏らによってエルトンの Ecology of Invasion by Animals and Plants 1958年が「侵略の生態学」(4)として思索社から翻訳出版されると、日本の生態学界は俄かに活気づいて来る。外来種の移入、環境の汚染、野生生物の殺戮、生態系の物理的破壊に対してこれを看過できないという機運が高まって来たのである。この頃には共立出版から生態学講座 19巻 37分冊も出版されている。1980年の初頭、「侵略の生態学」を模したような「侵略と攪乱の生態学」が淡水生物と海洋生物それぞれで東海大学出版会から出版された(35、38)。これは「侵略の生態学」翻訳本の出版から約10年後、であり、生態学はいつの間にか応用生態学に変質していた。

前述したように、現在では生態学は保全の面が強調される保全生態学が主流となっている(50、58、59)。「日本生態学会誌」は現在では「保全生態学研究」とセットで刊行されている。一方で、基礎生態学の分野では2011—2016年に共立出版により「シリーズ現代の生態学」全11巻(日本生態学会監修)が刊行されている。

今西錦司と生態学

さて、筆者は今西錦司を日本の生態学のパイオニアと位置付けたが、皮肉なことに今西自身は生態学と題する本を著していない(今西ら(編)生態学体系古今書院は植物生態学(5)と応用生態学(11)のみ出版)。「行為的直観の生態学」(54)は今西錦司著になっているが、実際には中村桂子氏が京都哲学撰書全31巻の中で今西の生物学を紹介するのにこのタイトルを用いたものである。

今西は晩年になって自然学を提唱し、自分は生態学者でも、進化生物学者でもないと言明した。しかし、今西の業績は生態学そのものであり、日本の生態学のパイオニアであることに間違いはない。生態学をやると進化生物学に係わりたくなり、進化生物学をやると生態学に係わりたくなるとよくいわれる。今西も生態学を突き詰めた上で、進化論に進み、「私の進化論」(1790年)、「ダーウイン論」(1977年)、「主体性の進化論」(1980年)などによって「反ダーウィニズム」進化論の論陣を張った。しかし、その進化論は前提となる生物世界の把握において、種・種社会・生物全体社会という階層構造から全体論に陥っており、進化を論ずる前提が間違っていたといえる。1983年には「自然学の提唱」で生態学に回帰するが、今西はむしろ進化論には係るべきではなかったと考えられる。

奇妙なタイトルの生態学

日本の生態学の歴史を表1によって概観したが、この小文のもう1つの目的として奇妙なタイトルの生態学について紹介したい。

「日常」(20)、「有限」(30)、「二つの」(37)、「反」(40)、「偏見」(43)、「個性」(44)、「曖昧」(47)、「なっとく」(68)、「俠気」(69)、「絶望」(70)の生態学がある。「日常」(20)は生態学者水野寿彦氏の著であり、あえて自然界に行かずとも、身の回りに生態学があるという説明である。「有限」(30)は東北大学名誉教授栗原康氏の著で(同姓同名のアナーキズム研究者とは別人)、境界をもった有限な空間における生態系という意味で有限という言葉を冠している。動物、植物、バクテリアからなる自給自足の生態系はバイオスフェア2として有名なものである。「二つの」(37)は生態学者、文学者である京都大学名誉教授の川那部浩哉氏の著であり、単行本ではなく岩波書店の「科学」に掲載されたものである。生態学には個生態学(個体群生態学)と群集生態学の二つがあり、群集生態学には群集をバラバラの個体群の集合と考える派と、群集を1つの有機体と考える派があると解説される。結論的には群集は「風呂敷」(?)であるとまとめられる。この論説はその後「川と湖の生態学」(39)に収められ、こちらでも読むことができる。川那部氏については2つの苦言がある。海外の学者をダーウィンさんとかヘッケルさんと、「さん」付けすること、何か親しい友人のように感じてしまう。海洋生物学者レイチェル・カーソンの職業を新聞記者としていること、全く誤りではないが、海洋生物学者とするべきだろう。「反」(40)は東京水産大学名誉教授水口憲哉氏の著であり、書下ろしというよりは氏の雑誌投稿文などをまとめたものである。「偏見」(42)は川那部浩哉氏が「反」に対抗するかのよう書かれたものである。あとがきでは「反生態学」は「反」ではなく、「半」ではないかと揶揄しているが、雑誌、新聞記事などをまとめた単行本であり、書下ろしでないことは「反」と共通している。「個性」(44)は京都学派の片野修氏の著であり、生態学はあくまでも個体レベルに注目するべきであるという個体モザイク説を提唱している。その意味では「個体の生態学」のタイトルで良いのだが、それでは従来の生態学の単位と同一なのであえて「個性」としたと考えられる。カワムツの雄1個体を広(コウ)と呼んでいるが、これはあくまでも片野氏がそう名付けたのであって、カワムツが自らをコウと名乗るとは思えない。「曖昧」(47)は「偏見」(42)に続く川那部浩哉氏の著であり、これも雑誌、新聞記事、さらに「侵略の生態学」の訳者あとがきなどが挿入されている。出版社の提案で「曖昧」を受け入れたとのことだが、「偏見」(42)には「京都新聞」に掲載された「複数の偏見を持つこと」という小文が下敷きになっていると種明かしがあるが、「曖昧」(47)にはそれがない。太宰治は志賀直哉の「暗夜行路」に対して、ここには「暗夜」なんてどこにもないと罵倒したが、「曖昧の生態学」にも「曖昧」はどこにもなかった。むしろ「自負の生態学」などとすれば、オースティンの「自負と偏見」に対抗したようで良かったのかも知れない。「なっとく」(68)は保全生態学者鷺谷いづみ氏の著であり、読んで字の如し、これを読めば生態学が分かる仕組みになっているようである。「俠気」(69)はフリーライター船木拓生氏の著で、生態学の書ではなく、空前絶後の生物画家牧野四子吉の実像を描いているものである。本書によれば、1955年初版の広辞苑には第5版まで挿絵があり、初版の2000強の挿絵は牧野の手になるものだそうである。牧野夫妻の周囲には大杉栄、辻潤らのアナーキスト、天才画家竹久夢二、そして京大の生態学者今西錦司、可児藤吉らがいた。可児藤吉は1944年にサイパンで戦死しているが、可児藤吉全集に可児の画像があり、これは牧野が描いたものである。「絶望」(70)は広島大学教授山田俊弘氏の著であり、「軟弱なサルはいかにして最悪の「死神」になったか」の副題が付いている。絶望とは現在の生物の絶滅状況を表現したものであるという。

しめくくり

さて、生態学であるが、生態系の解明という純理論的な側面と、公害を防ぐための応用科学という側面があり、この両者が全く交流していないことは日本の生態学界の謎となっている。この事で

思い出すのは市川惇延氏であり、氏は2001年3月の国立環境研究所地球環境センターニュース124号の中で、科学を①自律科学、②統治科学、③公衆の科学に分類した（ダーウィン・ディレンマを超えるために）。日本における公衆の科学の不在、真の生態学の不在は実に悲しい現実である。

京都大学出版会から M. Begon, J.L. Harper, C.R. Townsend の「Ecology: Individuals, Populations and Communities」(3版)が堀道雄の監訳により「生態学」として2003年に翻訳出版された。1300ページを越える大著であるが、タイトルがシンプルに「生態学」であるので、ここでは取り上げず、書名のみを記しておく。

そして生態学は今や公害防止の科学というヒトのための科学シャロー・エコロジーから、地球のための科学、生物多様性のための科学であるディープ・エコロジーに変質するべきであるという重い主張まで現れるに至っている（ノルウェーの学者 Arne Naess アルン・ネスら）。生態学の向かう方向は深淵であり、これでは「深淵の生態学」になってしまいそうである。

2025年度 JSA 助成研究を募集します！

JSA 研究助成委員会

日本科学者会議研究助成要綱に則り、次の要領で2025年度JSA助成研究を募集します。
この研究助成には、JSA会員ならどなたでも応募できます。

公募期間:2024年11月1日～ 2025年1月末

審査:2025年2月

研究期間:2025年4月開始

研究報告書提出:複数年度実施の研究も含め毎年3月末迄に提出すること。

研究成果公表メディア選択報告:研究終了年度末から3か月後(6月末)までに行うこと。

研究助成限度額:単年度研究20万円、複数年度研究15万円(3年が上限)

助成予算:毎年120万円

応募方法:JSAウェブサイト (<http://www.jsa.gr.jp>) の会員専用ページ(ユーザー名とパスワードをご存じない場合は所属支部役員にお問い合わせ下さい)から申請書類「JSA 研究助成応募(様式1)」をダウンロードし、所要事項を入力し申請書ファイルを完成させてください。

- ・申請書ファイルは、公募期間内(厳守)に全国事務局研究企画部kenkyukikaku(at)jsa.gr.jp宛に、「2025年度研究助成応募」というタイトルの電子メールに添付して送信してください。

申請受付後、速やかに返信メールを送ります。もし返信が届かない場合は、上記アドレスに問い合わせてください。

- ・各地区から互選された9人の研究助成委員に研究企画部長を加えた10名で構成する研究助成委員会が、提出された申請を審査します。多数の応募をお待ちしています。

なお、日本科学者会議研究助成要綱は会員専用ページにあります。

行事案内

☆1月18日(土)10:00~11:45 1月例会:年の初めのフリートーク 「新たな戦前」にならないために、できることは……? 会場:港南台地区センター小会議室(港南台駅徒歩10分) 主催:港南台9条の会(090-8520-8580、成田)

- ☆1月19日(日)10:00~11:30 **学習会「川崎にも迫る水道料金値上げ問題とは」** 会場：中野島会館(JR中野島駅徒歩3分) 説明1：飯岡ひろし(SUW研究所代表)「憲法25条(生存権)からみた水道事業と料金問題」 説明2：井口真美(川崎市議)「水道料金制度はどうなっているのか」 説明3：町井弘明(かわさきの安全でおいしい水道水を守る会代表)「なぜ生田浄水場再建で値上げが阻止できるのか」 無料 問合せ：090-7944-5636(町井さん)
- ☆1月13日(日)13:00~16:30 **新春シンポジウム「被爆80年—核兵器違法化の時代、問われる被爆国の責務」** 会場：全労連会館2階ホール(御茶ノ水駅徒歩8分) 参加費1000円(学生500円) 特別報告：和田征子さん(日本原水爆被害者団体協議会事務局次長)「被爆80年、ノーベル平和賞を新たな力にして」 シンポジウム：土田弥生さん(原水爆日本協議会事務局次長)「核兵器の非人道性さらに発信し核兵器廃絶へ、世界はいま」、小薬岳さん(東京学生平和ゼミナール、法政大学3年生)「私たちが被爆の実相を継承・発信する先頭に」、加藤裕さん(弁護士、沖縄合同法律事務所)「戦争準備の最前線、日米の軍事強化に“負けない”沖縄の心」、笠井亮さん(非核の政府を求める会常任世話人)「核固執の自民党政治と『非核の政府』実現の展望」 オンライン参加希望者は比較の政府を求める会ホームページから事前の申し込みが必要。問合せ：03-5844-6588
- ☆1月19日(日)13:00~16:00 **つどい「期待したい!!考えたい!!新たな湯河原のまちづくり** 会場：湯河原町商工会館3階(JR湯河原駅徒歩1分) 特別講演：矢野裕(全国革新懇代表世話人)「どうみるどう考える国政・地方政治」 参加無料 主催：湯河原革新懇 問合せ：090-5796-9583(高山さん)
- ☆1月19日(日)14:00~ **1・19国会議員会館前行動** 場所：衆議院第2議員会館前を中心に(国会図書館方面も御利用下さい) 共催：戦争させない・9条壊すな!総がかり行動実行委員会/9条改憲NO!全国市民アクション
- ☆1月19日(日)18:00~20:00 **核も戦争もない世界を 日本被団協ノーベル平和賞受賞おめでとう!和田征子さんのオスロ報告集会 受賞を新たな出発点に!** 会場：かながわ県民センター2階ホール(横浜駅西口徒歩5分) 呼びかけ人挨拶：小沼通二さん、報告：和田征子さん(日本被団協事務局次長) スピーチ：羽場久美子さん、高原孝生さん 資料代800円(高校生以下無料) 主催：横浜市非核兵器平和都市宣言市民のつどい実行委員会 問合せ：090-8726-5227(吉沢さん)
- ☆1月19日(日)18:30~ **劇団コーロ公演「眠っているウサギ」** 会場：神奈川県立青少年センター(JR桜木町駅徒歩8分) 前売り一般3500円、高校生以下2000円 当日プラス500円 問合せ：06-6704-0624
- ☆1月20日(月)18:30~20:30 **被爆80年スタート集会** 会場：横浜市社会福祉センターホール(JR桜木町駅徒歩1分) 講師：安田和也(都立第五福竜丸展示館学芸員) 主催：神奈川県原水協 問合せ：045-231-6284
- ☆1月20日(月)13:30~15:30 **“歌って元気”ひるまのうたごえ喫茶** 会場：クラジャ(カフェ)(小田急線藤沢本町駅徒歩7分) 会費1000円(飲み物、お菓子付) 主催：藤沢合唱団 問合せ：070-1315-3501(新井さん)
- ☆1月21日(火)18:00~20:00 **日中Cafe 中国について楽しく学び、自由におしゃべりしましょう** 会場：かながわ県民センター707号室(横浜駅西口徒歩5分) 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：080-7937-0638(小出さん)

- ☆1月24日(金) 12:00～ **軍拡反対！選択的夫婦別姓の実現を！1・24 通常国会開会日行動** 場所：衆議院第2議員会館前を中心に 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクション／共謀罪NO！実行委員会
- ☆1月24日(金) 18:00～ **憲法改悪を許さない総がかり行動署名街頭宣伝** 場所：新宿駅 東南口 共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会／9条改憲NO！全国市民アクション
- ☆1月25日(土) 10:30～12:00 **朝日新聞スペシャル記者講演会 災害大国で生き延びるには～取材から見た教訓** 講師：佐々木英輔(朝日新聞編集委員) 会場：あーすぷらざプラザホール(本郷台駅徒歩3分) 参加無料 募集人数200名 申込み：<http://t.asahi.com/sasaki0125> 締め切り：1月13日 問合せ：神奈川東部朝日会 (u6876fy288c(at)asahi-net.or.jp) 主催：朝日新聞社、神奈川東部朝日会
- ☆1月25日(土) 14:00～ **どこまで聞こえていますか？日本の「戦争体制」と壊憲の足音** 会場：神奈川県民センター2階ホール(横浜駅西口徒歩5分) 講演：瀬瀬厚さん(山口大学名誉教授) 資料代無料 主催：戦争させない横浜市民ネットワーク 問合せ：090-8818-1431(高梨)
- ☆1月25日(土) 13:30～15:30 **小学校統廃合問題から考えるまちづくりシンポジウム** 会場：ヴェルクよこすか第3研修室(3階) 中村育己さん(走水小学校PTA、保護者)、長谷川紀子さん(坂本中学校区小学校再編地域課題検討会議) ほか 参加無料 主催：ヨコスカをよくする会 問合せ：045-827-2713
- ☆1月26日(日) 13:30～ **新春平和学校** 会場：かながわ県民センター2階ホール(横浜駅西口徒歩5分) 記念講演：渡辺治さん(一橋大学名誉教授)「石破政権における改憲・軍拡政策の新局面と平和への展望」 特別報告：丸山進さん(神奈川県原水爆被害者の会会長)「核のない世界をめざして」 参加費1000円(大学生以下500円) 主催：神奈川県平和委員会、原水爆禁止神奈川県協議会 問合せ：神奈川県平和委員会(045-231-0103)
- ☆1月28日(火) 18:00～ **憲法9条改憲NO!ウィメンズアクション** 場所：JR有楽町駅イトシア前 主催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会 性差別撤廃Project Team
- ☆1月29日(水) 13:30 16:30 **セミナー Zoom併用 広がる新たなバイオテクノロジー(エンジニアリング・バイオロジー)を受け入れることができるか?** 会場：東京ボランティア市民活動センター会議室A(飯田橋セントラルプラザ10階、飯田橋駅西口を出たら右。駅に寄り添うようにして建つ20階建てのビルがセントラルプラザ) 講師：四ノ宮成祥さん(元防衛医科大学校長)「バイオテクノロジーと合成生物学」、見上公一先生(慶應義塾大学理工学部外国語・総合教育教室准教授)「エンジニアリング・バイオロジー：デザインされた生命への期待」、天笠啓祐さん(フリージャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室代表)「産業界でのバイオテクノロジー応用の現状」 司会：島藺進さん(東京大学名誉教授) 参加費1000円(現地参加及びZoomとも)後日期間限定の逃がし発信あります。Zoom参加の方は事前に下記へ振込みください。郵便局からの送金の場合：口座番号10290-70860881 他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行028店(ゼロニハチ) 普通7086088 口座名義 神野玲子 Zoomの方は事前申込み：参加希望者は下記必要事項明記の上1月27日まで申込みください。申込み時の必要事項は名前、職業、電話番号、メールアドレス 申込み先 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp またはこちらから→<https://forms.gle/YRfhvppNgyn1YDSe7> アドレスに返信確認メールお送りします。アドレスは間違えないよう返信時確認ください。当日の詳細案内：ZOOM参加申込みされた方には1月27日ごろにZOOMのURL等案内いたします。主催：ゲノム問題検討会議：<https://www.gnomeke06.net/> 問合せ：神野玲子 E-mail jreikochan@yahoo.co.jp 090-2669-0413

- ☆1月30日(木) 15:00~18:00 『ヨコハマ市民自治を考える会』の定例会 会場：かながわ県民センター702号室(横浜駅西口徒歩5分) 市民自治に関心のある方は是非お越し下さい。問合せ：倉田(kura335200@star.ocn.ne.jp) 参加費300円
- ☆2月1日(土) 13:30~16:00 テーマ：PFAS 問題を検証する 会場：東京ボランティア市民活動センター会議室B(飯田橋セントラルプラザ10階、JR総武線・東京メトロ副都心線飯田橋駅西口すぐ) 講師：天笠啓祐さん(フリージャーナリスト、市民バイオテクノロジー情報室代表) 参加費500円(現地参加及びZoomとも) Zoom参加の方は事前に下記へ振込みください。郵便局から送金の場合：口座番号10290-70860881、他行からの送金の場合：ゆうちょ銀行028「店(ゼロニハチ) 普通7086088 口座名義神野玲子 Zooの方の事前申込み：Zoom参加希望者は下記必要事項明記の上、1月27日まで申込みください。申込み時の必要事項は名前、職業、電話番号、メールアドレス 申込み先：E-mail jreikochan@yahoo.co.jp またはこちらから→<https://forms.gle/4ysUhC2PYvquKR877> 当日の詳細案内：ZOOM参加申込みされた方には1月27日ごろにZOOMのURL等案内します。主催：people21 <https://people21she.wixsite.com/people> 共催：ゲノム問題検討会議 <https://www.gnomeke06.net/>
- ☆2月3日(月) 18:30~ 鶴見平和フェス憲法ミニ講座：韓国「非常戒厳」と日本国憲法の違い。及び自民党改憲案とは？ 会場：鶴見公会堂1号室・2号室(鶴見駅西口直結) 講師：前川雄司(弁護士) 資料代300円 主催：鶴見平和フェスティバル実行委員会 申込先：鶴見区革新懇事務局・金谷(Fax.045-573-8065、kanakazuo@yahoo.co.jp)
- ☆2月4日(火) 18:30~20:30 加藤陽子さんが語る戦争への道—そのとき学問は 会場：横浜市開港記念会館講堂(みなとみらい線日本大通り駅1番出口徒歩2分) 講師：加藤陽子さん(東京大学大学院人文社会系研究会教授) 主催：神奈川県弁護士会 問合せ：045-211-7705
- ☆2月9日(日)18:30~ 畠山澄子さん講演会「世界平和と日本の役割」 会場：海老名文化会館小ホール 講師：畠山澄子(国際交流NGOピースボート共同代表、TBS「サンデーモーニング」コメンテーター) 参加費500円(25歳以下200円) 主催：えびな・九条の会 連絡先：090-1100-6864(小川) メール：akkmh@tbz.t-com.ne.jp
- ☆2月11日(火・休) 12:50~ 「建国記念の日」に反対する2.11神奈川県民のつどい 平和憲法と《シンボルの政治》を考える 講師：志田陽子さん(武蔵野美術大学教授・憲法学) 会場：かながわ県民センター2階ホール(横浜駅西口徒歩5分) 資料代500円(高校生以下無料) 主催：2.11神奈川県民のつどい実行委員会 連絡先：045-212-5855(神奈川労連 担当・住谷)、080-6709-4147(当日限り 事務局)
- ☆2月11日(火・休) 13:30~ 戦後80年 軍拡・改憲を許さず平和な世界と日本へ 2025年2.11集会 会場：東京労働会館7階ラパスホール(丸ノ内線新大塚駅またはJR大塚駅徒歩10分) 講演：林博史(関東学院大学名誉教授)「沖縄戦から出撃基地・沖縄へ」 主催：「建国記念の日」に反対し、思想・信教の自由を守る連絡会 問合せ：歴史教育者協議会 03-3947-5701
- ☆2月16日(日) 13:30~16:30 いま止めよう！気候危機シンポジウム in 横須賀 会場：神奈川県立保健福祉大学階段教室 資料代500円(学生無料) できるだけメールsriku7524(at)gmail.comで予約を 基調講演：江守正多(東京大学未来ビジョン研究センター教授)、桃井貴子(気候危機ネットワーク東京事務局長) 明日を生きるための若者気候訴訟の報告：山本大貴(大学生、若者気候訴訟原告) 各地からの報告：遠藤睦子(あつぎ気候市民会議)、藤法淑子(藤沢プロジェクト)、藪治(神奈川労連) 主催：横須賀火力発電所建設を考える会 問合せ：鈴木陸郎(046-847-3253)
- ☆2月18日(火) 18:00~20:00 日中 Cafe 中国について楽しく学び、自由におしゃべりしまし

よう 会場：かながわ県民センター・ボランティアサロン（横浜駅西口徒歩5分） 主催：日中友好協会神奈川県連合会 問合せ：080-7937-0638（小出さん）

☆2月22日（土）13:30～ **ノーベル平和賞授賞式報告会 人の道に反する核兵器は廃絶するしかない** 会場：鶴見公会堂ホール（JR鶴見駅西口直結） 第一部：コンサート ヴァイオリン 前田みどりさん、ピアノ 山室知子さん 第二部：祝辞 渋谷治雄鶴見区長（要請中）、県議・市議、野末浩之氏、報告：和田征子さん（日本原水爆被害者団体協議会事務局次長） 挨拶：笠木隆（原水爆禁止神奈川県協議会理事長） 主催：実行委員会 問合せ：080-3727-5352（金谷さん）

☆2月22日（土）13:30～17:00 **第64回教科書を考えるシンポジウム 英語ぎらいはなぜふえるのかー新しい英語教科書を手がかりに** 会場：東京労働会館7階ラパスホール（丸ノ内線新大塚駅またはJR大塚駅徒歩10分、zoom併用） 報告：江利川春雄さん（和歌山大学名誉教授）、中学校教師、英語教科書編集者からの報告 協力金800円 問合せ：子どもと教科書全国ネット21（03-3265-7606）

☆2月22日（土）14:30～17:00 **「日米地位協定とは何か」を学ぶ講演学習会** 会場：神奈川労働プラザ多目的ホールB（JR石川町駅中華街口徒歩5分） 講師：伊勢崎賢治さん（東京外国語大学名誉教授） 資料代500円 主催：実行委員会 問合せ：越川(y-koshikawa(at)hotmail.co.jp)

☆3月3日（月）18:30～ **鶴見平和フェス：憲法ミニ講座：敵基地攻撃は日本国憲法違反では？自衛隊の指揮権を日米一体で運用は違憲？** 会場：鶴見公会堂1号室・2号室（鶴見西口直結） 講師：長谷川拓也（弁護士） 資料代300円 主催：鶴見平和フェスティバル実行委員会 申込先：鶴見区革新懇事務局・金谷（Fax. 045-573-8065、kanakazuo@yahoo.co.jp）

☆3月9日（日）13:30～16:30 **今、聞きたい！ 内田樹最強対談白井聡 憲法9条を巡る動き 日本は、世界はどこに行くのか** 会場：鎌倉生涯学習センターホール（JR鎌倉駅東口徒歩3分） 対談者：内田樹（神戸女学院大学名誉教授）、白井聡（京都精華大学教授） 入場料1000円（20歳以下無料） 主催：鎌倉・九条の会 申込み：mail kamakura9jo(at)gmail.com 氏名・電話・予約枚数記入 fax 0467-60-5410 氏名・電話・予約枚数記入 店頭：島森書店、たらば書房（発売開始1月10日） 問合せ：0467-24-6590（井上）

JSA 神奈川支部幹事会・発送作業

日時：2月18日（火）14時30分～16時、14時30分から発送作業、15時から幹事会の予定。

会場：かながわ総研事務所（横浜市中区不老町1-6-9 第1HBビル5階、1階に「牡丹飯店」という中華料理屋のあるビルの5階、JR関内駅西口徒歩3分）、Zoomで参加される方は、15時に <https://www.zoom.us> にアクセスし、メニュー欄の「参加」ボタンをクリックして、ミーティング2月の幹事会のZoomはID：419 866 1062 パスコード：250019 です。

連絡先：飯岡ひろし（携帯：080-1987-0994、E-mail：jsa.kanagawa(at)gmail.com）

次号の原稿の募集：近況、論説、報告、旅行記、論評、自著紹介、書評、その他、原稿をメールまたはファックスでお寄せください。毎月10日ごろの締め切り、15日ごろの発送です。

送り先：後藤仁敏（E-mail：goto(at)kd5.so-net.ne.jp、Fax：045-894-1052）